

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等		-	
事業毎の通番		7		市町村名		木祖村	
事業目的		計画地は木祖村葦原地区の後背地にある溪流の葦沢とその流域に存在する山腹崩壊地である。昭和28年に保安林指定されて以来、上流の山腹崩壊地を発生源とする流出土砂から下流の保安対象を守るため十数基の谷止工が施工されてきたが、いずれも満砂している。また、上流部の山腹崩壊地からの土砂流出は続いていることから山腹崩壊地の復旧を図り土砂災害を防止する。		箇所名(ふりがな)		葦原(やぶはら)	
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等		森林法	
関連する事業、計画等		砂防事業					
保全対象・範囲 受益対象・範囲		人家64戸、国道19号、JR中央線、公共施設(木祖村民センター)、一級河川(木曾川)					
着手年度		平成28年度		事業期間		3年間	
完成年度(見込み)		平成30年度		事業費(千円)		211,000	
費用対効果		6.70		財源内訳(千円)		国庫 105,500 県債 94,950 一般財源 10,550	
全体事業内容(主な工種)		山腹工 0.84ha 土留工 9個 実播工 2,400㎡		年度事業内容(主な工種)		山腹工 0.24ha 実播工 2,400㎡	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) 人家64戸、国道19号、JR中央線、公共施設(木祖村民センター)、一級河川の保全					
間接的効果(定量的・定性的)							
必要性		○人家戸数: 64戸 ○公共施設数: 2箇所 国道19号100m、木祖村民センター ○災害時要援護者関連施設の有無: なし ○保安林・林業用施設: 保安林率83% 土砂流出防備保安林(S28.11.17)		評価		A	
重要性		○過去の災害履歴: なし ○交通遮断による地域経済への影響: 大 国道19号、JR中央線 ○地域防災計画上の位置付け: あり 長野県地域防災計画、木祖村地域防災計画		評価		A	
効率性		○費用対効果(B/C): 6.70 ○事業期間: 3年間 (H28~H30) ○工法等の比較検討: あり 崩壊斜面の土質の応じた復旧工法を比較検討済み ○流域の総合調整: 調整済 砂防事業		評価		A	
緊急性		○流域の地形、地質: 破砕帯 境峠・神谷断層帯 ○平均渓床勾配(平均山腹勾配): 8.9° (42.8°) ○下流の堰堤等の整備状況: あり (概ね満砂) ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域: 山腹崩壊危険地区(A)、崩壊土砂流出危険地区(B)		評価		A	
計画熟度		○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 協力的である ○地域の合意形成: 合意形成が図られている ○住民との協働:		評価		B	
部意見		上流に崩壊地があり、放置すれば下流保全対策が被災する恐れがあることから、対策工を行う必要がある		行政改革課意見		上流域の山腹崩壊が拡大し不安定土砂が下流へ流出している。保全対象には人家、国道19号、JR中央線等があることから、重要性、重要性、緊急性が認められる。	
				評価結果		○ A	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	
【整備の必要性がわかる状況写真等】	
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	木祖村葦原地区の後背地にある葦沢は、流域内の崩壊地からの土砂流出と溪流の荒廃が進み、昭和28年に保安林に指定されて以降十数基の谷止工が施工されてきた。近年は目立った災害は起きていないが、崩壊地からの土砂生産は続いており、溪流内への不安定土砂の堆積が見られることから、治山事業により住民の安全・安心を向上していく必要がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	木祖村を通じて平成27年5月に地元区から治山事業要望があった。
③事業説明等の経緯	平成27年4月30日に木祖村へ説明済み。地元区には木祖村を通じ説明済み。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	計画地の流域内の土砂災害対策は、中上流部の発生源対策等は治山事業、下流部の流出対策は砂防事業により対応することとして建設部、林務部が連携して流域内の整備を進めている。(平成27年12月に木曾建設事務所と調整済み)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	山腹崩壊地の復旧にあたっては、緑化工には在来種の種子を使用するとともに、長野県産材利用方針に基づき間伐材を活用した木製構造物を積極的に計画する。
⑥地域活性化への影響と配慮	
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35° 55'55" 東経:E 137° 47'43"